

研修報告書

1. 研修報告書
2. 質問項目についての報告

氏名	源田蒼		
所属大学	大阪大学	学部	工学部
学科	地球総合工学科	学年	3年
専門分野	船舶海洋工学		
派遣国	チュニジア	Reference No	TN-2022-8146-ME
研修機関名	SAROST.sa	部署名	
研修指導者名	Mehdi BEN HAMOUDA	役職	Project Director
研修期間	2022年 8月 11日 から	2022年 9月 31日 まで	

I. 研修報告書

1. 研修報告の概略を 1 ページ以内にまとめてください。

私は Tunisia の SAROSTsa という海上設備管理会社で二ヶ月間インターンをした。

勤務して最初の一週間はまず専門的な英語になれるため、会社の資料を熟読した。

2 週目からのプロジェクトとしては、会社の管理している OffshorePlatform の Inepection Manual の作成を行った。

具体的には、Inspection 頻度ややり方(海上構造物のさび、摩耗、亀裂などの点検かつ修理保全)に関して

具体的なデータや文献を調べて Excel にまとめた。構造物は主に OffshorePlatform/Vessel/CalmBouy

Morning Cable などで、それぞれの部材、構造部分、海中・海上・海水に侵食される部分、などに分けて

それぞれでどのような方法で Inspection を行うかを検討した。

この作業は研修の第二週から最終週まで行った。

そのほかに2点、研修中に参加した活動がある。一つ目は TICADへの参加だ。TICAD はアフリカと日本が交流を深めるイベントで 8 年に一度開催されている。私が滞在している時にたまたま TICAD が Tunisia で開催されており、また私のボスも参加会社として招待されていたため一緒に連れて行ってもらった。

日本の会社が多く展示をしていて、その中に船舶系の会社も来ておりその会社の方とボスが話していた。

国際的な大きな場であったが、1会社が他の会社と繋がり後々に同じプロジェクトに取り組むというのはこういう場で生まれるのだなと思った。話の内容は非常に専門的であったがネイティブでないボスがたくさんの船舶技術に関する話を

日本の会社の方としているのを見て、いずれ自分もこのような仕事をしたいと思った。

もう一つは研修 7 週目に OffshorePlatform に実際に行ったことである。それまでずっと資料や動画で見てきたがやはり実際に見てみたいということでボスにお願いして連れて行ってもらつた。木曜日の夜に船に乗って沖に向かった。自分としてはヘリポート付きの作業船に乗るのも初めてで、普段乗るフェリーとは全く異なる構造、推進機動をしていたので船に乗りたまでもとても勉強になった。朝になって Offshore Platform の真下についていた。

あまりにも大きくて、また教科書で勉強している姿が目の前で実際に現れて本当に感動して言葉も出なかった。

その後 OffshorePlatform にクレーンで吊るされて乗り込み、中の構造を案内してもらった。とても危険なので

1 人で出歩くことはできず説明後は部屋で過ごしていたが、それでもとても面白い石油採掘機構や本物のタンカーを間近で見ることができて本当にチュニジアに頑張ってきてよかったと心から思えた。間違いなく人生で一番幸せな瞬間だった。その後会社に戻り作成した Excel を提出して私の研修は終わった。

2. 研修内容および派遣国での生活全般について写真を含めて 4 ページ程度で具体的に報告してください。

(研修日誌、テクニカルレポートや単位認定用のレポート等)

今回与えられたタスクについて.

SAROST が管理する OffshorePlatform CalmBouy Tanker その他渓流システム、ホースパイプインの定期検査(頻度、方法など)についてまとめた

海洋構造物に関しては主に構造全体表面(海中部、海上部、中間部に分けた)における General Visual Inspection の手順、探索ロボなどを使用した Highly Detailed Inspection、 Cleaning and Repairing の具体的基準などを調べた. 詳しくは、

NAVAL FACILITIES ENGINEERING SERVICE CENTER

UNDERWATER INSPECTION CRITERIAなどを参考にした.

元々は海洋構造物に関する論文から具体的な数値(炭素含有量、侵食割合)などを用いて 資料を作成し提出したが、Boss から内容が一般的で抽象的すぎるとの指摘をいただきその後は民間の海洋構造物マネジメント会社や、Inspection and Cleaning に関する動画などを参考にし 実船の現場に近い情報を集めるように心がけた.

次に Calm Bouy, Tanker に関して. こちらの二つに関しては元々会社が資料として持っていたものを見せていただき、マニュアルとして箇条書きにしてまとめた. Tanker に関してはフランスの 船級協会 Bureau Veritas の船級認証の原本を見せていただきとても勉強になった.

社内の内容なのでここでは書けないが、大学の教科書で見ているような船に関する情報が 実際の会社が所有しているタンカー(Tupsus)に関して事細かに書かれていた. 実際に貨物船を 近くで見ることはできなかったが、船体資料と見比べるととても興味深かった. ただ私の知識不足 で全てを理解できたわけではなかったので、今後より船に関する知識を深め、船級や船体構造 に関して研究や仕事ができるようになりたいと強く思った. Calm Bouy に関しては構造部べつに 細かく Inspection の方法が書かれており、また原本資料には海中の見えない構造だけでなく 内部構造に関しても設計図や細かい説明がありとても勉強になった. しかし係留装置については 授業でも習ったことがなく、初めて見る装置だったので最初は理解するのに時間がかかった.

Calm Bouy 設置の目的としては、船を係留するだけでなく、波浪下において船の向きをホースに 対して一定にすることで捻りに対する摩耗、劣化を防ぐためのものであるとわかった.

船体方向を変えるための Swivel という装置が CalmBouy 上にあるものの情報が全くなかったため とても理解が難しかった. 係留における力のかかり方や、摩擦、張力による劣化など、具体的で ありながら大学で勉強している内容に通ずるものも多かったので、今後大学の研究などで 材料学について勉強したいと思った.

最後に、石油を排出するためのホースについて. ホースが今回のタスクの中で最も難しく 最終的な結論もあまり納得できないものとはなったが、一番時間をかけて調べた思い出深い 構造である. ホースは InportHose と ExportHose があったが、この Inport と Export の意味が 海底からなのかプラットフォームから CalmBouy なのか CalmBouy からタンカーへなのかが、 なんと Boss も他の社員の方もわからず、まずそれについて調べた. しかし当然答えが出なかつた ので、それぞれのパターンについて(水中か空中か、ホース内径差など)調べ、摩耗状態、交換 頻度・方法について調べた. しかしあまりにニッチな内容だったため具体的には見つからず ロープの素材や海洋構造物に関する Inspection の論文などから該当する部分を引用するだけ にとどまった. 以上が派遣先における勤務内容である.

有名な観光地 Medina in Tunis

自分の家から電車で 30 分ほどで行けて、またカフェなどもたくさんあったのでよく行った



TICAD の様子 Tunisia のスタートアップのプレゼンを聞いた



Monasty にある遺跡 友人たちと SouthTrip に行った際



伝統料理 Couiscous 家庭料理らしいがレストランでよく食べていた



ルームメイト よく料理をしてもらって食べていた

(左から、私→ケニア人の友人→トルコ人の友人→フランス人の友人)



Offshore Platform 人生で一番幸せな瞬間だった



II. アンケート

以下の質問にお答えください。

A. 研修内容について

1. 研修内容は、O-form に記載されていたとおりでしたか。(はい)

「いいえ」と答えた場合、どこが違っていたか具体的に記述してください。

2. 就業時間は、O-form に記載されていたとおりでしたか。(はい)

実際の就業時間： 1日(5)時間

1週(5)日間；(月)曜日から(金)曜日

3. 研修先から支払われた“滞在費”は、現地通貨で週いくらでしたか。“滞在費”的内訳と日本円に換算した金額をあわせて書いてください。

週単位： 現地通貨(125TND) 日本円(5722 円)

全支給額： 現地通貨(826TND) 日本円(35814 円)

4. 研修先から支払われた“滞在費”は、生活するのに十分なものでしたか。(はい)

「いいえ」と答えた場合、何にいくらぐらい足りませんでしたか。

5. “滞在費”はどのように支払われましたか。(例：現金手渡し・銀行振込・小切手等)

現金手渡し

6. 研修中の滞在先について、宿舎の形態、周辺地域の環境や治安について詳しく記述してください。

寮滞在(La Goulette)

ダウンタウンの住宅街に比べると賑やかな街で、特に夏は夜でも街に人がたくさんいた。

慣れてくると1人で夜中に買い物にも行っていたので、割と安全だったといえる。

ただ必ず最低三人はニーハオと声をかけてくる。面倒なので基本的に無視していた。

7. 研修中の滞在先(宿舎)から研修地までの通勤について書いてください。(交通の便・手段・費用等)

寮の前のバス停から終点まで 約1時間半

費用 1TDN=45 円

8. 研修先での職場環境(人間関係)は良かったですか。(はい)

「いいえ」と答えた場合、不満だった点を書いてください。

9. 研修において、何か特別なプロジェクトに参加しましたか。(いいえ)

「はい」と答えた場合、参加したプロジェクトの内容を記述してください。

10. 研修において、あなたの語学力(O-form に記載されている Required Language)は客観的に見て

十分だったと思いますか。(はい)

B. 生活について

1. 研修以外の時間(勤務時間後や週末)はどのように過ごしましたか。

勤務後は寮の友達と話したり、ご飯を食べに行った。

八月は週に一回は海に行つた

週末は IAESTE Tunisia の開催するプログラムに参加するか、それとは別に

友人と企画して自分たちで観光に行つたりした。

また、金曜の夜はナイトクラブに行くか一晩起きてパーティをしていたので、

次の日は昼過ぎまで寝て、夕方から観光地に遊びに行くことが多かった

2. 研修地で IAESTE 事務局主催の催しに参加しましたか。(はい)

「はい」と答えた場合、参加したプログラムの内容とあわせて感想も書いてください。

ピンボール

チュニジアについて初めての週のプログラムだったので緊張していたがそこで友達ができた。

3. 派遣国で、その国の伝統文化に触れるような機会はありましたか。(はい)

「はい」と答えた場合、どのようなものに参加したか、感想も詳しく書いてください。

チュニジアの料理をよく食べた。フリカセとクスクスがとても美味しかった。

どんな料理でもハリッサをつけて食べるのが面白かった。

美術館や遺跡にも何度か行った。

説明がアラビア語で書かれていたのであまりよくわからなかつたが

友人に説明してもらった。

4. 派遣国の印象を、現地へ行く前と行った後のイメージの変化も含め、詳しく書いてください。

派遣前はあまりチュニジアに対してイメージがなかつた。

場所となんとなく写真で見ていただけなので、逆に先入観を持たずに渡航できた。

ついてからは、想像以上にあまり日本と変わらない生活が待つていた。

みんなスマホを持ってるし、スーパーや街で見かけるお店もそこまで変わらないと思った。

ただ、日差しがとても強いことと、みんなよくビーチに行く点は面白かつた。

陽気な人が多い印象

5. 研修国で、日本のことについて質問をされましたか。(はい)

アニメ

車

寿司

酒

日本語の仕組み

生活(収入、家賃、普段の食事、)

戦争観(アメリカとロシア、どっちのサイドなのか、広島や長崎に落とされて日本人は怒っていないのかなど)

本当に日本人はハードワーカーか

おすすめの観光地 など

C. IAESTE との連絡

1. 研修出発前、手続き上何か問題はありましたか。(いいえ)

「はい」と答えた場合、問題点を詳しく書いてください。

2. 派遣国への入国情時に何か問題はありましたか。(いいえ)

「はい」と答えた場合、問題点を詳しく書いてください。

3. 派遣国到着後、宿舎ならびに研修先へ自分ひとりで行きましたか。(いいえ)

「いいえ」と答えた場合、誰と行きましたか。

IAESTE Tunisia の学生が空港まで迎えに来てくれた

4. 3で「派遣国の IAESTE 事務局」と答えた場合、IAESTE 事務局はどのように関与していましたか。

出発前から連絡を取っていたなど、分かる範囲で具体的に書いてください。

出発前からメールだけでなくチャットでもやりとりをしていた

Tunisia の事務局は学生団体のような感じだったので、IAESTE の学生も寮に一緒に生活していた
留学生をお世話する人というより、普通の友達として接していた。

5. 研修初日、研修先の受入準備体制は万全でしたか。(はい)

「いいえ」と答えた場合、何に不備があったか書いてください。

6. 研修前から研修期間中、派遣国の IAESTE 事務局は、どのように関与していましたか。

研修期間中、問題が起こったときに適切な対応もしくは助言をしてくれましたか。

4通り

ただし、他の留学生で VISA の対応が適切にできておらず留学期間中に帰国した子や
研修先を何度も変更している留学生もいた。

D. その他

1. 今回の IAESTE 研修を通して、最も良かったと思うことを書いてください。
普通に生きていたら思いつかないような国に行って生活することができたこと

2. 研修予定内容に関して事前に勉強をして行きましたか。(はい)
「はい」と答えた場合、何を勉強し、どう役立ったかを書いてください。
専門内容の英単語は事前にある程度覚えてから行った

3. 研修終了時に、受入企業に研修レポート(Technical Report, Training Diary を含む)を提出しましたか。
(いいえ)

4. 日本出国前に準備しておいたほうが良いと思われるなどを書いてください。
箸 カップラーメンはフォークでは食べづらい

5. 所持金やクレジットカード等、いくら・どのように持参されたか、また準備が十分であったかを書いてください。
自分の口座に十分な分の額を入れていたためお金には困らなかった
町中に ATM があるのでどこでも引き出せたし、
カードでのタッチ決済もチェーン店やスーパーなら可能であった

6. 日本から持参した物の中で、特に役に立ったもの、あるいは必要なかったものがあれば書いてください。
役立ったもの
冷えピタ(あまりにも暑いのでよく貼っていた)
水着(人生で一番、海やプールに入った)

7. 来年以降、あなたが派遣された国へ、研修生として派遣される候補生に向けての助言を書いてください。
(研修のことだけでなく、語学面や生活面など、気が付いたことはできるだけ詳しく)
可能であれば 7 月に行ってほしい
ほとんどの国は夏休みが 6~8 月なため、私が 8 月についた翌週から多くの留学生が帰国しました
そのため、せっかく友達ができてもすぐにお別れということが何度もあった
もちろん過ごした時間は短くともその後も連絡をとっている友達もいるので
自分としては満足しているが、やはり今年度 1 番のイベント、South Trip(7 月開催)に行けなかつたことや
最後の帰国の時にほとんどお別れを言ってくれる人がいなかつたのが悲しかつた
(平日に帰国したため IAESTE Tunisia の学生も大学に行っていた)

交通手段について

最初は頑張ってバスを使って出勤していたが、早くタクシーに慣れておけばよかつたと思っている
値段は 10 倍近くするがそれでも 500 円ほどだし、タクシーに乗るのが怖くてバスを使っていた頃は
1 日約 4 時間ほどバスの乗車と待ち時間に潰していたので、20 分で家に帰れるタクシーの方が
結果的に良い。

食事について

寮で料理もできるが私はしなかった
 見かねたルームメイトがほぼ毎日ご飯を作ってくれた
 そうじやない日は家の周りに大好きなフリカセ屋さんがあったのでよくそこに行っていた。
 近所にもパン屋さんや小さいお店はたくさんあったが、コンビニのおにぎりのように
 軽く食べるものはあまり売っていなかった。

また私の勇気がなかったのもあるが、同じ店にばかり行っていたのが心残りだ
 チュニジアはサンドイッチ屋さんがとても多く(日本での牛丼チェーンのような)、味もとても美味しいが
 店内が暗いことが多く、かつ店の前に屈強なおじさんが何人も座っていることが多いため
 怖くて入れなかった。
 なので、行きやすいところ 3 店舗ほどばかりに行っていたが、
 留学の最終週にチュニスでサッカーの試合があり街中のほとんどの店がしまっていて
 ご飯が買えなかつたのでもっと色々な店に入る挑戦をしておけばよかったと後悔している。

職場環境について

私のボスや同僚はとても優しく、また普通の学生なら経験できないような素晴らしい体験をさせてもらつたのでとても満足している。ただ、言語がアラビア語かフランス語なので基本的に何を話しているかはよくわからなかつた。言語を勉強しに行っているわけではないので特に気にしていなかつたが
 自分だけ会話に入らないと言うことが往々にしてありうるということは
 覚悟をしておいた方がいいかもしれない
 もちろん英語で話しかけられて話すことはたくさんあったが、アラビア語で盛り上がつた後に
 どんな話をしていたのか説明されることが多かつたのでかなり反応に困つた。

8. 研修前と研修後で、自身の専門分野や国際理解に対する考え方、どのような変化がありましたか？

とにかく、専門に関する知識とその内容を英語で説明できるようにならなければならぬと感じた。
 友達には船の話は簡単な英語を使って説明してもなんとなく伝えていたが、
 本当の現場ではそれでは意味がないし、しっかりと知識と内容が伴つた方が説明も簡潔にできると
 強く感じた。

9. 今回の研修に参加したこと、海外への留学に興味を持ちましたか？すでに興味を持たれていた方は、その気持ちに変化はありましたか？

今回の留学は実りあることも多かつたが、同時にやはり考へては甘くはないし
 やり残したこと多かつたなという気もした。言語に関しては問題ないとと思っていたが、
 文化的違う人がたくさん集つた時、どう自分のことを主張するのか、また共通認識がない中で
 どう自分に興味を持つてもらうかは今後の課題だと思った。
 やはりアニメや車など、日本のイメージが先行することが多く、あまり「私」について話せなかつたなと思って
 いる。相手もアニメの話を足がかりに私の話を聞いたかったのかもしれないが、グループで話すと
 話題の移り変わりも早くお互いを理解するのに時間がかかつた。

自分がこうゆう状態に置かれた時どうなるのかよくわかつたので、この発見をもとに
今後はもっとスムーズにグループの会話に入れるようになりたい。

10. 今後 IAESTE での研修を考えている学生の方々へ、メッセージがあればお書きください。

楽しいことだけではありませんので行っている最中は大変だなと思うこともありますが、
なんやかんや帰ってきたら、もう一回行きたいなと思うので大丈夫です。